

話題 其の41：“在ヨルダンのメイド事情”

『ヨルダン国内にて、表向きは軍事演習中の米軍が、駐留地で40名ほどのフィリピンメイドを臨時的に雇用している』という話題をお知らせしたのは、4月5日付けの《キーフ ハーレック第27号》でした。我が家に週2回通うJuly（ジュリー）も、一度は米軍居留地で働こうかと迷ったのですが、結局はやめました。

6月末、Julyに「居留地で働いたメイドさん達は、その後どうなったの？」と聞いてみました。すると『雇用期間が終わった日、全員に約束通りの賃金が支払われ、携帯電話が返却された。そして、皆が居留地の外に出るとヨルダンの警察官が大勢待っていて、全員事情聴取され、ある人は留置所へ、ある人は元の雇用主の元へ、ある人はフィリピンに帰国する手続きを始めた』そうです。

ここからは、以前から私がJulyに聞き取った話を組み立てて推測したのですが、留置所へ行ったメイドさん達は、雇用主の元を雇用契約期間中にパスポートも持ち出せずに逃走した人たちで、雇用主から搜索願（告訴状）が出されていたのでしょう。

また、中には雇用期間を無事勤め上げた者で、フィリピンに帰国せず、ビザ無しで滞在を続けた者は、その違反金として全滞在日数×1.5JD（ヨルダンディナール＝約270円）を支払う義務があります。Julyの場合もそうでした。私の元に来る前に、ある日本人が彼女を3年間雇用したのですが、雇用主が帰国した後もJulyはビザ切れのままヨルダンに留まり、約8ヶ月分の違反金350JD（約60,000円）を支払いました。その上、新たに今後1年間のビザを取得するために、諸手数料など含めて500JD（約90,000円）が必要でした。

本来、メイドを雇用する場合は、斡旋業者を介して、契約書が交わされ、滞在手続き、ビザ取得費用、フィリピンからの航空賃は雇用主が斡旋業者に支払います。そして、勿論雇用主は月給も支払うわけですから、2年間のメイド雇用に概算で3,500JD（約630,000円）という当地では大金が必要なのです。月額約145JDのこの額は、一般的なヨルダン人の月給に相当します。その分、メイドの仕事を監視するだろうし、私生活でも逃走につながる一切の危険性を排除するでしょう。それが、「休日を与えず、外出させず、電話や手紙による外部者との接触を一切禁じる」という極端な行動に出るのです。だから、隙を窺って逃げ出してしまふ。

我が家に通うもう一人のメイドさんBerenda（ビレンダ）が全くそのとおりのケースです。彼女達の友人でもこのケースが最も多いのです。

ここで、フィリピン人にとっての出稼ぎが如何に大きな利益をもたらしているか、触れておきます。

現在1\$（ドル）は約58P（フィリピンペソ）に相当します。また、1JDが約1.4\$ですから、100JDの月給は140\$に相当し、140\$×58P=8,120Pになります。私が滞在した頃のフィリピンでは、雇っていた住み込みのメイドさんに3,000P程度払っていたように記憶しています。貧困に苦しむフィリピンで、職に就けることさえ困難な時期に、これは大きな稼ぎなのです。

「フィリピンに仕送りして、残してきた家族の生活を助ける」そのために苦勞している彼女達が、不法滞在の反則金など支払うお金などある筈もないのです。

過酷な雇用環境⇒逃走⇒不法滞在⇒検挙⇒受刑、この一連の問題も、インドネシアやスリランカから来ているメイドさん達に比べると圧倒的にフィリピン人に多いようです。その理由は、フィリピンでは職業訓練などでメイドが教育されていること。そして、英語が話せることで友人を介して、海外からの滞在者が好条件で雇ってくれるからです。

私の住むマンションには8所帯が暮らしていて、多分5所帯にメイドが生活している様子ですが、彼女達の姿や顔を見ることは滅多にありません。

他人への思いやりや人権というモラルの高揚は、世界中の課題なのでしょうね。きっと。
